

## 造船所若手職員にインタビュー

四国内の造船事業者で働く  
20、30代男性お二人に仕事  
についてお聞きしました！



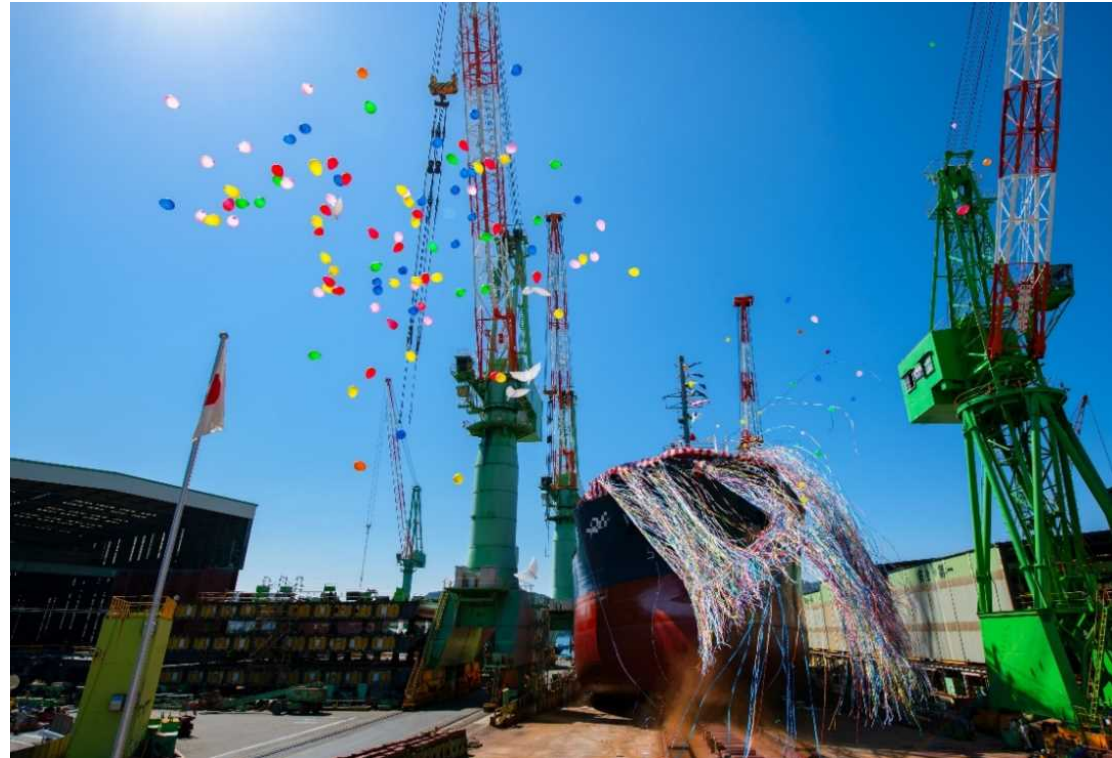
# 想像を超えるスケール 日本にとって必要不可欠な産業

### 仕事内容はなんですか？

溶接や鉄工の技術を活かして船のパーツとなるブロックの製作を主に担当しています。納期に合わせて製作のスケジュールを立てたり、重量物を、重機を使って運搬したり、製作後のブロックを確認するなど、細かい作業を多く受け持っています。前後の部署との連携も図りながら、円滑に作業が進むように調整していきます。

### あなたが目指すビジョンは？

頼れる上司に恵まれ、将来の目標が明確なのはありがたいことです。自分も上司のようにみんなから信頼され、尊敬されるような人になりたいです。そのためには、工程をしっかり把握し、的確に納期に間に合わせる調整力、現場をまわしていくリーダーシップも必要。コミュニケーションを大切に、ステップアップを目指していきたいと考えています。



進水式：造船所内で作られた船が、初めて海に出る儀式・作業のこと。

### 仕事において苦勞したこと・うれしかったことは？

造船には専門用語や必要な知識が多いので、覚えるのには苦勞しました。全体のスケジュールを踏まえた上での工程管理や、各部署と連携し、進捗状況を確認しながら前もって準備を進めていくなど難しい局面も多いですが、無事に進水式が成功した瞬間はすべてが報われるとき。とても嬉しく、やりがいも大きいです。

### 学生や就活生に対してアドバイス

造船業というのは、想像を超える大きなものを造る仕事です。興味を持ってくださった方には、ぜひ一度進水式を見に来ていただきたいと思います。船が船台から海へと進水する瞬間の迫力は、実際に感じてこそ！一隻一隻を思い出に残すこともできるロマンのある仕事だということも感じてもらえると思います。